

# 1)案内

光円寺 山の家 満月 新月の集い

新月：十一月十四日(水) 満月十月三十日(火) どちらも要連絡)

光円寺 パソコン教室 初歩でも、ハイレベルでも個別指導 参加者募集

十一月二十日(火) 午前十時～ 参加費五百円 毎月第二火曜日

光円寺 定例 同朋会

十月二十八日(日) 午後二時～ 唯信抄』

光円寺 選択本願念仏集学習会

十月三十一日(水) 午後七時三十分～ 講師 玉光真人さん

第七組公開講座 生きるとはどういふことなのかー福島で見えた人間、

いのち、つながり「佐藤幸子さん 予どもたちを放射能から守る福島ネットワーク代表講演会

十月二十九日(月) 十二時～十六時 於西勝寺 参加費五百円

第七組「〇」から知る真宗講座第一回 十一月十日(土) 於西勝寺

見るべきものを見るの聞くべきものを聞く仏さまの智慧 講師玉光順正さん

放射能からいのちを守りたいーひよひよのいのちのいのちのつながり

フシマから見えたもの「佐藤幸子さん講演会&ひよひよの活動の交流会

十月二十七日(土) 十四時～二十時 於明石中崎公会堂 一部八百円

「いのちのつながり」 福島の絵描き 渡辺智教さん作品展

十一月一～十一日(木～日) 十時～十九時 於ひびきの家 姫路市飾

東町庄(神姫バス71～74系統 庄)下車北へ一分 入場料カンパ

## 編集後記

永代経前に寺報を出すつもりが後になつてしまいました。おそ

うじい、お料理の準備、お参りに苦労をさせていただきました。今回も皆さんのいのちのいのちな持

ち寄りで秋の永代経が勤まりました。次は報恩講。今年12月8～9日です。

皆さんは、納骨後の骨壺はどうしていますか？ お骨は皆さんでひらいて

骨壺に入れて、家に連れて帰って中陰壇でおまつりをし、中陰後にお

墓に納骨というのが、一般的な流れですが、その納骨の時に「骨壺」をどうし

てはるのか？どうしていますか？骨壺のまま納骨されるとどうもありませんが、

お骨は土に帰るものだから、思われている人たちがたたくと居られ、骨壺

をどうしたらいいのかと、相談される人があります。で、私はどうしたら

いいのでしょうか？「ひよひよ」の骨壺をどうしますか？ほとんどの人は、墓地で細

かく割ってしまうか、持して帰って家で処分するのですが、そんな中、ある青年

は自分の母親の骨壺なので、持して帰って、梅干を漬ける壺にするわー」とい

つて大事に持して帰ったのです。そんな彼の行為を目の当たりにして、骨壺を処

分するといふことは、死を見ないよつにする。死を遠避ける。とつて、日常の

思いが根底に流れていて、それが「処分」という方法を選ばせているだけで、実

は仏教の説くところの生死出る道を、分断するといふ行為に他ならないの

ではと、思うよつになりました。で、今日、お参り先で、来月納骨をされるとい

う話の中で、骨壺をどうしようか？とつて、どうしようか？とつて、納骨まで一ヶ月

有るので、その骨壺をどうするかゆくりきえてください。普段、死を見

ないよつに、考えないよつに、触れないよつに、生きている自分に、死は、

生の隣り合わせで、いつも傍にあるんだと「きき人」が教えてくれているの

に、それを日常に戻して、死を避け続ける生き方をしてしまっている。そんな

自分の在り方が「きき人」から問われているのでしようね。で、骨壺はど

んな風に変化するのか？割ってしまうのか。不燃ごみに出すのか。はたまた梅

干の壺になるのか。観葉植物を植える鉢になるのか。花瓶になるのか。水槽に

なるのか。骨壺を身近に置くよつで、生死するいのちを感じ続ける自分のい

のちを見つめ直すよつで、仏のはたらきを受け続ける、そんな新たな日常が始ま

つていくのも素敵なことではないか。

「内部被曝は、核の秘密につながる。もし、放射能で人類に被害が起き

ることを認めてしまえば、毒ガス兵器と同じで、使用できなくなってしまう

よつ。そのため、内部被曝はない・起きないよつになってしまいました。こ

れは元東電社員現在医師の小野俊一さんの言葉。ブログ「院長の独り言」

で大事な情報をたくさん伝えておられます。ネットが見れる方どうぞ。

3・11以降生活の優先順位が変わってしまいました。それまでの日常の土台

を壊した3・11。私たちは土台の壊れた家に何も知らず今まで通りに住ん

でいる。土台ばかりではない屋根には火がついている。家が大きいから中

で遊んでいる子どもたちは気付かず、家の外に出て来ない。そういう比喩

でお釈迦様が私たちの人生を言い当てる「火宅の人」。まさに今の私たちが

と思わずにはいられない。でも、気付いたよつに、いかに早く気づくか。

その火を消さなければどこまでもこの火は世界へ燃え広がるのだ。極小の

時限爆弾放射能。収束しない福島原発をかかえて私たちはどうするのか！

そこへまたまたハチドリの一羽話を聞く。みんなが逃げ出す山火事で、ハ

チドリは一滴の水をその火にかけては引き返したのかが書いておいて、力の

大きさではなく、生きる姿勢の問題なのだよつことか。何か結果を求

めたり、限られた情報で結果を思い描くから、迷つのだな。なまぬみだつ